

大伴小だより

富田林市立大伴小学校 令和3年2月26日（金）3月号

～「得意なもの」を見つける旅～

校長 堤 周作

「本校の敷地に水仙がたくさん咲いています。場所は JA側のフェンス沿いで、かわいいお花なので探してみてください」と放送集会で話しました。すると、帰りに早速4年生の男女10人の2グループが「水仙ってどこ～」と探しに来たので案内し一緒に香りを楽しみました。中旬には 1年生が「桜がもう咲いてるよ」とアイパッドの画像を見せてくれて、すぐに行くと、朝礼台の後ろの河津桜が咲き始めていました。また、学童側の門の梅の花が満開で、甘い香りを漂わせています。

12月には6年生の園芸栽培委員と一緒に、市公園緑化協会から頂いた葉ボタン100株を植えました。葉ボタンだけでは寂しいので、冬休みにびおら チューリップの球根等を購入し、何日かかけて登下校で通る3つの門前に植えました。今週は、さらに頂いたパンジー400株と、校務員の松井さんと選んだ種々の花を、たくさんの子どもたちが手伝ってくれて植えました。園芸栽培委員の女の子が、「学校を花いっぱいにすることが夢だったけど、今年は夢がかなった」と話してくれました。委員の人たちは寒い日も交替で、朝早くから水やりもしてくれています。また、市社会福祉協議会の事業に応募中で、選考されれば次の6年生と、さらに多くの花を植え育て、校区の福祉施設に寄贈したいと考えています。

そして21日（日）には、「おやじの会」の皆様が校内の桜の木に肥料をまいて頂きました。あちこちに植えたチューリップも、ひょっこりと茎が出てきています。寒さの中でも自然は、次の活躍の準備をしています。桜もチューリップも卒業式には花が咲いて、一緒に 6年生を祝ってくれたらと願っています。

さて、6年生にとって「大伴小だより」は今号で最終となります。そこで 6年生にメッセージを贈ります。ドラマ「エール」の恩師から主人公への言葉、「人よりほんの少し努力するのがつらくなくて、ほんの少し簡単にできること。それがお前の「得意なもの」だ。それが見つかればしがみつけ。必ず道は開く。」。

私の中学教員生活18年間で10年間で3年生担当でした。3年生の担当は責任重大で大変だけど、生徒の強みや苦手を見極め、進路と一緒に悩み励まし伸ばしていくのは醍醐味があり、大好きでした。

とき へ なに し おおともしょう ふにん ほごしゃ おし ご にん たんにん すうがく おし
時を経て何も知らない大伴小への赴任。保護者に教え子が5人いました。担任であったり、数学を教えて

いたり、野球部員であったりと。16～25年ぶりの予想しなかった出会いにお互い驚くとともに、お母さん、お父さん、社会人として活躍していること、お子さんを立派に育てていることに感激しました。

もう1つ、最近気づいたこと。6年生が 1年生の時に担任だった西尾先生と、2年生の時に担任だった谷川先生は、彼らが中学3年時に私が担任でした。4～5年前、私はそれぞれの先生から結婚式に招かれました。その式中で、同僚の先生たちがサプライズとして準備した児童からのお祝いの動画が、会場に大きく映されました。その頃の私は何年も激務（裏方の仕事）が続いていて、子どもたちの無邪気てかわいいお祝いのメッセージを見て微笑ましく癒されるとともに、子どもたちに慕われる教え子を誇りに思えたものでした。今考えてみると、サプライズを企画した先生たちは大伴小の先生たちであり、あの時に映っていた優しい子どもたちは幼き頃の6年生だったのですね。

「1度目の出会いは偶然、2度目の出会いは運命」と聞いたことがあります。立派な親御さんや社会人となった教え子との2度目の出会い、大伴小の先生たちとの2度目の出会い、教え子の教え子（6年生）との2度目の出会い、偶然と言うには陳腐過ぎて、運命としか思えない不思議な気がします。そして温かい大伴小の子どもたちとのふれあいの日々は、私のかけがえのないものになっています。私にとって先述の「得意なもの」は、教職だったのでしょ。

6年生の皆さん、いよいよ君たちが自分の「得意なもの」を見つける旅に出発です。大海原に旅立つ卒業生に素敵な歌詞を紹介します。たくさんの困難の中、明るく遅く生き抜いた大伴小校区出身の大先輩、浪花千栄子さんがモデルの「おちょやん」の主題歌「泣き笑いのエピソード」（作詞：秦 基博）です。



長く険しい旅、困難には休憩しながらも踏ん張ってほしい。そして悩みや苦しみのかさぶたが消えたなら、大伴小の先生たちに成長した姿を見せに来て、「泣き笑いのエピソード」を話してくださいね。